

【テーマ6】幸福度が高い地域福祉

市町村名： 昭和村(保健福祉課)

コメント：

【調査研究において、どんなところに関わりましたか？】

- ・高齢者の自主的な活動を支援するアクティブシニア事業を活用して行う、地域の手作り文化祭に学生と同行し、会場運営を手伝いながら地域の方と過ごした。
- ・地域伝統行事「歳之神」に関東方面大学生と準備から参加し地域の方々と交流した。

【調査研究をとおしてどんな効果を感じましたか？】

学生が地域に関わるからこそ、大きな価値ととらえています。

孫世代の学生との何気ない会話は高齢者が「教える立場」になり自分が役に立っているという感覚に繋がっていますし、何か学生にしてもらいたいというより「食べさせてあげたい」といった動機が高齢者本人の気力を高めるとともに認知低下予防に直結していると考えます。

普段、行政側には決して見せない高齢者の表情も伺える、とっておきの機会と捉えています。

【どんな点に苦労しましたか？】

一番は、いかに自然な流れの中から交流し、学生が何気なく聞きたいことを引き出せるかに注意を払いました。この点は事前に教授と学生と情報共有し、会場準備からお手伝いしていただきました。

今回の学生はすべて、自然で素晴らしい入り方で始めから安心して様子を伺っておりました。

【今後に生かしていきたいことはありますか？】

提言されたスマートウォッチなどが、導入の過程やその後のサポート役として学生が地域に訪れることが交流につながると気づかされた。

報告書最終ページにあるアイデア集に興味を引かれました。可能性があるかないかは別として、地域の方と一緒に楽しく、「こんなこともできるんだって～」から会話をする機会を持ちたいものです。

市町村名：柳津町(みらい創生課)

コメント：

【調査研究において、どんなところに関わりましたか？】

町冬まつりを案内し、調査に同行した。また、オンライン打ち合わせ等にも参加した。

【調査研究をとおしてどんな効果を感じましたか？】

この研究を通じて、地域の幸福度や福祉についての新しい視点を得ることができました。特に、住民の生の声を丁寧に拾い上げ、それをもとに具体的な提案に落とし込んでいく点が素晴らしいと思います。地域の課題をデータとして捉えるだけでなく、実際に住民の方々と触れ合いながら考えを深めているので、より実践的なアイデアが生まれたのではないのでしょうか。行政としても、こうした学生ならではの柔軟な視点や発想は非常に参考にな

ります。

【どんな点に苦労しましたか？】

特に苦労した点はない。

【今後に生かしていきたいことはありますか？】

スマートウォッチのようなウェアラブルデバイスの活用は、とても興味深い視点だと感じました。高齢者の健康管理や見守りの面で、どのように実用化できるか、行政としても考えていきたいテーマです。

一方で、フットパスの導入については、地域の特性や住民のニーズを踏まえると、実施に向けたハードルがやや高いかもしれません。ただ、健康増進や地域交流の観点からは魅力的なアイデアなので、どのような形で活かせるか、引き続き考えていきたいと思っています。

【その他、何かコメントがあれば！】

発表の内容がとても充実していて、学生の皆さんが真剣に取り組んでいることが伝わってきました。住民の方々の声を大切にしながら、未来に向けた新しいアイデアを生み出してくれたことに感謝します。

また、以前アドバイスしたユニバーサルデザインに基づいた配色がしっかり活かされていて、とても見やすい資料になっていたのも良かったです。色の選び方ひとつで、情報の伝わりやすさが変わるので、こうした工夫がされているのは素晴らしいですね！ 今回の研究を通して得た学びを、これからの活動にも活かしていってください！

市町村名:金山町

コメント:

【調査研究において、どんなところに関わりましたか？】

オンラインミーティングに参加し、学生と交流した。

【調査研究をとおしてどんな効果を感じましたか？】

地域福祉の充実のための新たな取組の一例を伺えてありがたかった。

各町村の調査により学生が現地で感じたことなどが最終的なプレゼンにどう反映されたかに興味がある。

大学側も自治体側も少ない時間の中で本事業に腰を据えて取り組めたとはいえないところが残念ではあるが、成果そのものを真摯に受け止めたい。

町側の反省点としては、本来本町の風土も、学生の調査研究の場として学生を友好的に受け入れる。そのつながりを大切にしたい事業であればよかった。

【どんな点に苦労しましたか？】

大学側の進捗をうまくつかみ切れず、全体的な進捗を把握しきれなかった。関りが断片的であったと反省する。そのような中で町として“どのように関わるべきか”という点において苦労した。

【今後に生かしていきたいことはありますか？】

フットパスによる地域の見直し、スマートウォッチを活用した健康づくり、地域全体で食生活を見直す等、具体的な案が出され、どれも新しい視点であり、本町としての取組に組み込みたい点である。

課題としては“誰が実践していくか”が一番であるが、人材面での課題がクリアできれば新たな取組となり、地域福祉に直につながる。本町が町づくりの理念として大事にしている「支えあい」の推進にもつながる。

【その他、何かコメントがあれば！】

3年間大変お世話になりました。本事業をきっかけに県内で一番高齢化が進んだ町として、調査研究の場としてご活用いただきたいし、その際は、今回以上に交流を密にしたいと考えています。